

〒260-0031 千葉県千葉市中央区新千葉2-17-6

サンコート新千葉102号

E-mail:kidchiba@lily.ocn.ne.jp

TEL:043-301-7262 FAX:043-301-7263

発行責任者：特定非営利活動法人 子ども劇場千葉県センター

2024年3月10日発行 第105号 1部100円 <https://chiba.gekijou.org/>



「不登校」をどう理解するか

学校と距離をとる「不登校」が必要な時がある

増え続ける不登校の子どもたち。三年連続最高数を更新するほどの現状に、大人や社会がどのように対応し、向き合えばよいのかを、ご自身が不登校を経験し、創刊からかかわった『不登校新聞』の取材からのおはなしを石井しこうさんから学びました。不登校についての学びから希望が持てる未来を感じることができたことをみなさんにご紹介します。

不登校の小中学生が増え続ける現状をどうするか

◆結論は、不登校をどう理解するかである。

ここ三年間で、小学生の不登校数が倍増し、低学年化している。どの子にも起こりうる。この現状の中でどうすればよいのか。その結論は不登校をどう理解するかです。

文部科学省の不登校に対する基本方針は変わりました。

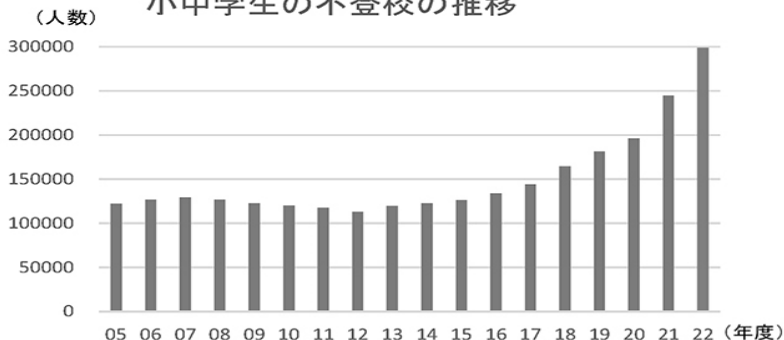
◆不登校というだけで「問題行動」と判断してはならない

◆学校復帰だけを求めるのではなく最終的な社会的自立を目指す

これまで、年間三〇日以上以上の欠席を「不登校」として年度内に復帰させることになっていましたが二〇一九年に変更になりました。

◆不登校の状況 過去最多の30万人、小学生が倍増

小中学生の不登校の推移



石井しこうさんプロフィール



1982年東京都生まれ。中学校受験を機に学校生活が徐々にあわなくなり、中学2年生から不登校となりフリースクールに通う。19歳から『不登校新聞』のスタッフとなり2006年から編集長。2020年から『不登校新聞』代表。これまで、不登校の子どもや若者、親など400人以上に取材を行ってきた。また、幅広いジャンルの識者に不登校をテーマに取材をしている。NHK「あさイチ」「逆転人生」ほかメディア出演多数。著書に『学校に行きたくない』と子どもが言ったとき親ができること（ポプラ社）『フリースクールを考えたらずっと読む本』（主婦の友社）。

2023年度団体正会員学習交流会

チャイルドライン千葉受け手ボランティア研修・養成講座

テーマ 「不登校の子が新しい一歩を踏み出す時」

講師 石井しこうさん

特定非営利活動法人全国不登校新聞社 代表理事

日時：2024年2月21日(水)

14時～16時

【Zoom開催】

参加者数：86人



不登校の理由は言葉にならない。
言葉になるまで一〇年から十五年かかります。

不登校の理由は、人間関係、イジメ、教員、授業が苦痛、HSC（敏感、繊細、豊かな感受性をもった気質）などの特性、ストレス…複数該当する場合や、本人にもわからないことも多い。

罪悪感や不安、本当の自分をさらけ出すことの怖さ、心に持つ傷。それが、言葉になるのは一〇〜十五年後くらいが目安になります。

不登校を経験された石井しこうさんご自身は、中学受験がきっかけで不登校になったと理由が分かったのは25歳くらいになってからだそうです。

学校に行かなくなる前に言葉にならない予兆があらわれます。

学校に行かなくなる前に体調不良、不眠、情緒不安、食欲不振、持病がこじれやすくなるなど、身体からのSOSがたくさん出てきます。夜を通して深く悩んで朝を迎えることや、現実を忘れるために朝までゲームをするなどの予兆です。子どもにとって限界ぎりぎり、最後に出るのが「学校に行きたくない」

不登校の理由探しをいったんやめて、心の回復を待ちましょう。

心が回復するまでの地図

- | | | |
|----------|----|--------|
| ① 身体症状 | 対応 | 環境調整 |
| ② 感情の噴出 | 対応 | 付き合う |
| ③ 言語化 | 対応 | 最後まで聞く |
| ④ 親離れ・自立 | | |

（心療内科医 明橋大二）

心が回復するまでのステップです。

●ステップ①はどの子も精神的ストレスやトラウマを抱え、身体からの異変が出ますが異変に応じた対応します。

●ステップ②ではイライラ、泣く、甘える等感情の起伏が激しく現れますが、対応策は付き合うしかありません。「石にダシが浸み込む」くらいの速度で長期間にわたります。

●ステップ③ではいろいろな言葉で話しかけてきます。自分の昔からの不安を片っ端から言葉にしてきます。対応は、話半分できいてよいが、否定せずに最後までよく、「ねえ、どう思う」と聞かれたら「難しいーな」と。

●①から②を行ったり来たり、②から③へも同じように行ったり来たり。③から①へ行くこともあり、グルグルまわることもあります。入口は様々なパターンがあります。出口はほとんど同じです。

めざすべきゴールは

「ヒマだな」の連呼

いったんめざすべき状態が「ヒマだな」の連呼。上記のステップでは②と③の間くらいに「ヒマだな」の連呼が始まり次の一步に踏み出していきます。学校復帰や自己実現、社会的自立が最終ゴールです。

なんだか安心したよね
うん うん そうだね!



不登校対応に必要なのは

子どもに雑談 大人に息抜き

そして仲間を得ること

子どもの話（雑談）を聴くことは何事にも代えがたいもの。雑談の機会をつくりましょう。人とながらうことで解消していくもので、チャイルドラインはとても意義がある。大人は自分のケアとして息抜きをしましょう。子どもにとっても目ははなす時間が必要です。親に必要なことは不登校の仲間を得ることです。

不登校した大人は結局

ふつうのおじさんかおばさんになります

三〇年もたつと年齢相応になり、よくある人生のひとつという話になります

講演後の質問への応答

*不登校中の学習の遅れは、格差という以上に関わっている。やる気があれば半年で追いつくこともある。英検・漢検二級以上で特待生になれる道、Fランク大学への道、算数をゲームから学ぶ道などがあります。

*親は学習や読書をしていると心配しないが、ゲームやユーチューブは心配になる。ゲームでは依存症、脳への影響はないという学説が優位。不安からの逃避行動ともいえる。

*不登校によって社会性や協調性が身につかない心配は、社会性は二歳までに育つと言われているので心配しなくてもよいと思う。

*家が安心基地になってこそトライが可能

不登校に関する情報

◆「学校休んだほうがいいよチェックリスト」LINEで20項目のチェックリスト。行きたくない子の様子を伝えりと精神科医が回答

◆仲間をつくってわが子を支える「親コミュ」…不登校の親専門コミュニティ

◆不登校「その後」を知る場として「不登校新聞」（月2回発行）



「こども大綱」が策定されました！

「こども大綱」は、こども施策を進めるために作成されるもので、こども基本法に定められています。この大綱には今後約5年間を見据えたこども施策の方向性や重要なポイントが盛り込まれており、今後はこども大綱の内容に合わせて取り組みがすすめられることになります。



＜こども基本法2023年4月1日施行＞（一部抜粋）

こども基本法は、日本国憲法、児童の権利に関する条約（以下「こどもの権利条約1」という。）精神にのっとり、次代の社会を担う全てのこどもが、生涯にわたる人格形成の基礎を築き、自立した個人としてひとしく健やかに成長することができ、心身の状況、置かれている環境等にかかわらず、その権利の擁護が図られ、将来にわたって幸福な生活を送ることができる社会の実現を目指す。

＜こども大綱の策定2023年12月22日決定＞（一部抜粋）

こども・若者の権利を尊重し、多様な人格・個性を尊重し、権利を保障し、こども・若者の今とこれからの最善の利益を図られ、身体的・精神的・社会的に将来にわたって幸せな状態（ウェルビーイング）で生活を送ることができる社会を目指す。

＜千葉県と各市町村行政の施策への注視＞

今後、県・市町村行政が策定する「こども計画」を注視する。市民の声や当事者（こども・若者・養育者等）の声をきく場や反映の仕方、子ども・市民参加の仕組みづくり、施策の公開等、実効につながるオープンな策定がされるよう、NPOとしても働きかけていく。

こども大綱が目指すのは、「こどもまんなか社会」です。

～全てのこども・若者が身体的・精神的・社会的に幸福な生活を送ることができる社会～

◆◆ライフステージを通した重要事項◆◆

(1) こども・若者が権利の主体であることの社会全体での共有等

(2) 多様な遊びや体験、活躍できる機会づくり
（遊びや体験活動の推進、生活習慣の形成・定着）

遊びや体験活動は、こども・若者の健やかな成長の原点である。

例えば、こどもが遊びに没頭し、身体の内諸感覚を使い、自らの遊びを充実、発展させていくことは、言語や数量等の感覚などの認知的スキルや、創造力や好奇心、自尊心、想像力や思いやり、やり抜く力、折り合いをつける力などの社会情動的スキルの双方を育むことに加え、多様な動きを身に付け、健康を維持することにつながり、ひいては、生涯にわたる幸せにつながる。

こういった遊びや体験活動の重要性、学びへのつながりや、その機会を保障することの重要性を改めて認識した上で、国や地方公共団体、地域、学校、家庭、若者、民間団体、民間企業等が連携・協働してこども・若者の全てのライフステージにおいて、年齢や発達程度に応じて、自然体験、職業体験、文化芸術体験など多様な体験・外遊びを含む様々な遊びができるよう、青少年教育施設の充実を含め、地域資源も生かした遊びや体験の機会や場を意図的・計画的に創出する。

地域や成育環境によって体験活動の機会に格差が生じないように配慮する。

◇◇ライフステージ別の重要事項◇◇

（こどもの誕生前から幼児期まで）

こどもの誕生前から幼児期までは、こどもの将来にわたるウェルビーイングの基礎を培い、人生の確かなスタートを切るための最も重要な時期であるとともに、この時期への社会的投資が次代の社会の在り方を大きく左右するため、社会全体にとっても極めて重要な時期である。

また、乳幼児は多くの時間を家庭や地域の中で過ごし、幼稚園・保育所・認定こども園への就園状況も異なるなど、育ちの環境は多様である。

その多様性を尊重しつつ、保護者・養育者の「子育て」を支えることだけでなく、「こどもの育ち」に係る質にも社会がしっかりと目を向け、保護者・養育者の就労・養育状況を含むこどもの置かれた環境等に十分に配慮しつつ、ひとしく、切れ目なく、ウェルビーイングの向上を図ることが重要である。

乳児期におけるしっかりとした愛着形成を基礎とした情緒の安定や他者への信頼感の醸成、幼児期における他者との関わりや基本的な生きる力の獲得を通じて、一人一人のこどもが、かけがえのない個性ある存在として認められ、自己肯定感をもって成長することができるようにしなければならない。

プロの芸術家や専門性をもった指導者による「芸術的プログラム」を活用した
「0歳からの子どもの笑顔や養育者の癒しになる贈りもの」事業

こども大綱に謳われた ウェルビーイングを実現する 主体的な遊びと体験

2006年から2023年度までの実施実績データ:961か所 1,226回 総参加者数:25,727人
2023年度6事業73か所で実施! 参加者:2,727人 従事者:376人 計:3,103人

0～2歳児は、親子の愛着形成等で人格形成の基礎となる非認知能力を育む時期、学童期の子どもは主体的なあそびや豊かな体験により、想像力や好奇心、達成感、自己肯定感情、QOL向上といった「生きる力」を獲得する大切な時期です。2023年度は6事業73箇所 2,727人に芸術プログラムを活用した体験ワークショップを届けました。今後、「こども基本法」「こども大綱」に謳われている「こどもまんなか社会」の実現へと実を結ぶためには、0歳からの子どもの主体的な遊びや体験が重要となるのは明らかなです。

0～2歳児とその保護者が笑顔になるあそび・芸術ワークショップ 15か所

■2023年度日本郵便年賀寄付金助成事業 6か所 参加者:268人 従事者:20人 計:288人

「コロナ禍で制限されてきたコミュニケーション力をとりもどすための子どものあそび交流体験」

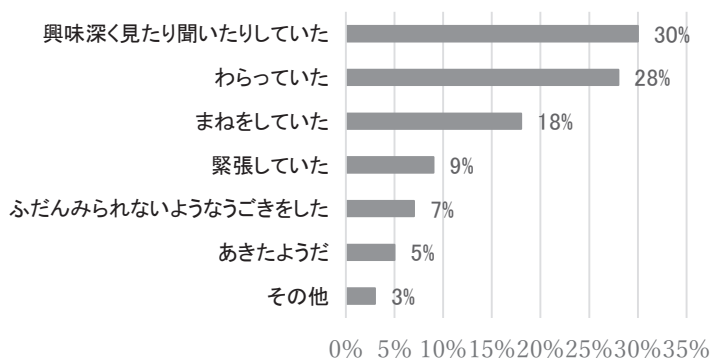
■2023年受託・連携乳幼児と親のための事業 6か所 参加者:233人 従事者:19人 計252人

■令和5年度赤い羽根共同募金助成事業 3か所 参加者:64人 従事者:9人 計73人

「0.1.2.3歳児がであうはじめてのおしばい」



◆0～2歳児の表情についてどうでしたか？ 3事業の保護者 施設職員等552人の回答



アンケート回収率 88%

●参加した0歳～2歳児の表情は、3か所の保護者・施設職員スタッフ552人アンケートでは、興味深く見たり聞いたりしていた、わらっていた、真似をしていた、ふだんみられないような姿をみた等、子どもの個々多彩な表情を捉えており、積極的な参加が83%となっている。

●一方、緊張していた、あきたようだ等、消極的な参加は14%あり、環境の変化に敏感な0～2歳児と、保護者にとって初めての体験での緊張もあると思われる。最初ぐずっていても、ワークの途中から「にっこり」になり、だんだんリラックスして親子で楽しんでいる0～2歳児ならではのほほえましい光景も見られる。

●参加した保護者の気持ちは、楽しかった いやされた うれしかった 安心できた等で95%を超えている。

●保護者:また参加したい100%

施設スタッフ:また実施したい ほぼ100%

実施施設の職員のリアルな声



*パフォーマーが、子どもの動作や音への関心、反応などを素早く察知し、子どもの目線に立ち、親を含めた参加者が楽しく過ごせました。音に合わせて体を動かす楽しさを子どもが感じていました。とても勉強になりました。

*他のところに行ってしまう子たちも受け入れていただき、お母さん方もほっとしていたと思います。集中していた親子が多く、職員としても嬉しく思いました。

親子のアタッチメントがほほえましい。赤ちゃんは全身が目と耳



日本郵便 年賀寄付金

幼児 小学生 中学生が笑顔になるあそび・アート・ワークショップ体験 32 か所

■令和5年度子どもゆめ基金助成事業 5 箇所 参加者：195 人 従事者：20 人 計：215 人

「出前で届ける子どものあそび*アート*交流体験 あそぼ あそぼ」

■令和5年度子どもゆめ基金助成事業 18 か所 参加者：433 人 従事者：124 人 計：557 人

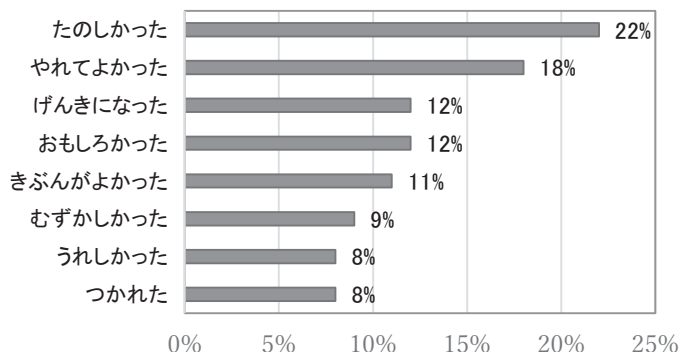
「病院や児童福祉施設の子どもの笑顔になる QOL 向上遊びワークショップ体験」

■2023 年度日本郵便年賀寄付金助成事業 9 か所 参加者：412 人 従事者：39 人 計：451 人

「コロナ禍で制限されてきたコミュニケーション力をとりもどすための子どものあそび交流体験」



今日のワークはいかがでしたか？出前体験 子ども複数回答305人



アンケート回収率 93%

- たのしかった、おもしろかった、やれてよかった、げんきになった、うれしかった、きぶんがよかったは 83%。また遊び過ぎて疲れた、コマを回すのは難しいという記述があり心地よい疲れだったようだ。
- 子どもたちが体を使い、技を教えてもらい、知恵を出し、仲間とコミュニケーションをとって遊んだ体験は、「またやりたい！」「またきてほしい！」「もっとやりたい！」という気持ちを引き出した。また「今日の体験は一生忘れない」と言わせたほどで、遊びが生きていく力になることを、子どもたちが教えてくれた。



National Institution For Youth Education
独立行政法人 国立青少年教育振興機構
「子どもゆめ基金助成活動」

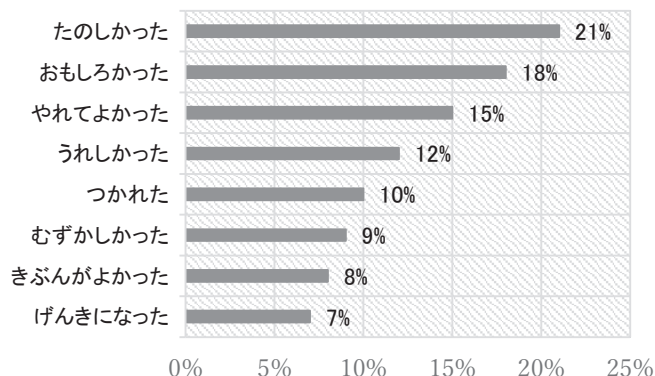
体験の風を
おこそう

きょうの体験は一生忘れない！

アンケート回収率 87%

- 子どもたちは、たのしかった、おもしろかった、やれてよかった、うれしかった、きぶんがよかった、げんきになったが 82%。積極的に参加した様子がわかる。また、友達と協力したり、指導者とのふれあいで思いっきり遊び、またやりたいは 100%だった。
- 施設職員は、普段あまり見られないような子どもたちの表情や笑顔が多く見られたことを一番に評価していた。そして、自分から主体的に活動し、満足感達成感を感じていて、もっとやりたい意欲が高くなったとらえている。個々の持つ能力、できることを発見できたという声もあった。

◆今日のワークはいかがでしたか？ 子ども(QOL向上あそびワークショップ)



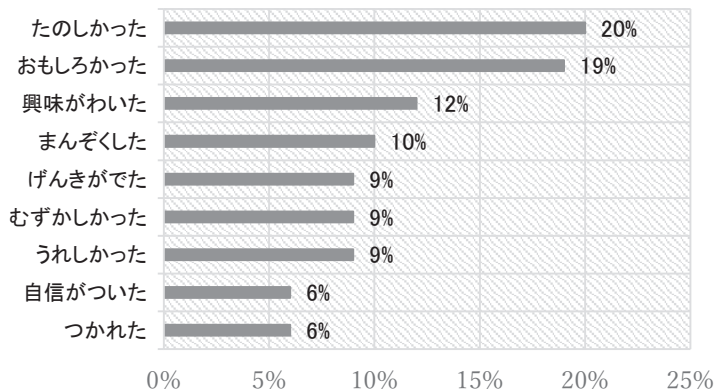
施設スタッフが実感したプロのパフォーマーの力

- ★本当に楽しく子どもたちはいろんなことに挑戦して素晴らしかった。実際に行った体験はゲームに負けない。
- ★子どもがいつもより生き生き輝いていた。楽しくて笑顔がいっぱい、子どもの発想が自由だ。
- ★あそび体験はとても大事だと認識していて、子ども劇場といっしょに子ども館でも今後も続けたい。
- ★子どもの自発的な能力をじょうずに促し、引き出していた。パフォーマーが、子どもの動作や音への関心、反応などを素早く察知し、子どもの目線にたち、親を含めた参加者が楽しく過ごせた。生活のよい刺激になり、親子も時と共に和やかで開放感に満たされたと思う。とても楽しそうだった。
- ★ひとりひとりの創意工夫を拾ってあげているところが、子どもの意欲をもっと引き出すきっかけになった。子どもたちの笑顔がたくさん見られ、子どもたちが良く動いていた。
- ★楽しんでいる子が多かったこと、高年齢児も拒否することなく遊べたこと。名前を呼んでもらえることで、自分のことを良く見ていてくれると感じられ、自己肯定感につながった。

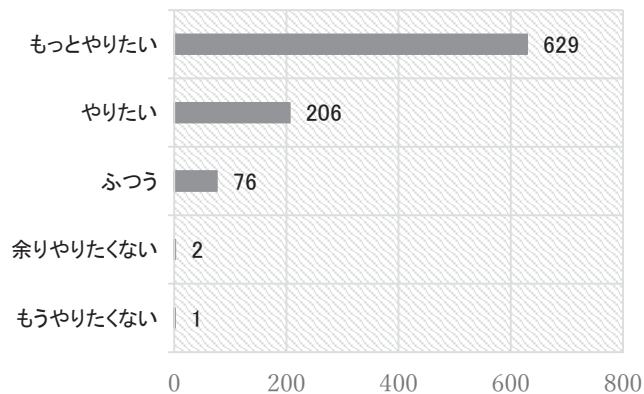
令和5年度 文化庁受託芸術家派遣事業 授業での芸術体験ワークショップ 26校

参加者：1,122人（子ども924人 教師・行政198人） 従事者：145人 計：1,267人

今日のワークどうでしたか？
（複数回答 子ども4,206人）



今日のワーク後の気持ちはどうでしたか？
（子ども914人）



芸術家と芸術の力による「授業」は「教育力」の宝の山！

●アンケート回収率は99%。ワークをやる前はやりたくなかった39人⇒やった後は3人に減った。やる前すぐやりたい359人⇒やった後もっとやりたい629人。やる前とやった後では、大きく子どもの気持ちが、やりたい〜もっとやりたいに変化した。体験してみないとわからない・体験したから実感できたことで、子ども期に、いかに体験が大事なかを如実に示している。

●ワーク後、子どもたちはワクワクと高揚した様々な気持ちが沸き上がり、どの子もいい笑顔になっている。たのしかった・おもしろかった・興味がわいた・満足した・元気が出た・うれしかった・自信がついた等86%を示している。

一方、むずかしかった・疲れたが14%。一見消極的姿勢と捉えがちだが、挑戦し、一生懸命取り組んだからこそ、難しくて疲れたということであり、体験の中でこうした感情を感じることはとても大事なことだ。



コーディネーターも元気になり気づきがある

様々な角度から子どもの芸術体験の効果や、芸術家やその作品についての情報を基に文化・芸術の社会的価値を高めていくようコーディネーターする。

準備して臨んでも時には問題が起きる。コーディネーターの適切な現場対応能力が必要で、あまいまな対応や、難しいからと逃げない姿勢が求められる。

学校や実施施設との信頼関係づくりを第一にしている。誠実に向き合い、子どもの状況やニーズをよく聴き取り、最善のコーディネーターをする。

授業としての芸術的ワーク 先生の評価

★落語や歌舞伎 狂言 和太鼓 箏等、伝統芸能・伝統楽器への関心も非常に高まり、どんどんひきつけられていることが見ていてよくわかりました。音声や映像だけでは伝わらない空気感や、所作についても感じ取ることや、曲を演奏することができ、達成感をもつことができました。

★普段から活発な子は張り切って取り組んでいましたが、いつもは周りを気にして自分を出すのが苦手な子が、練習を重ねるごとに自信を持ちしっかりと太鼓を打っていました。翌日なども数人で机を叩いては楽しんでいました。

★コロナ禍で3年間声を出して歌うことがなかった子どもたちは、なかなか声が出ず、楽しさや、うれしさの表現もむずかしそうでした。そんな子どもたちに対し、その場にあった対応や内容等、柔軟に対応していただきました。

★リズムに合わせて思わず踊ったり歌ったりする生徒がたくさんおり、感動のあまり、涙を流す生徒もいました。その日の帰りの会で、また一週間後も思い出して「楽しかった」と言っています。きっと今後の生活につながっていくと、生徒の生き生きとした姿から感じました。

★身体表現を楽しんでいる児童が多く、貴重な時間でした。言語での表現力が苦手な児童がいきいきと身体表現している場面が多く、表現の楽しさを感じられたようでした。

★みんなで力を合わせて作り上げたミュージカルは、それぞれが持つ個性が輝き、素晴らしいストーリーが生まれたことに感動しました。全員が自信に満ちた姿勢を見ることができました。

★バイオリンを見るのが初めての子が多く、演奏者の弓や指の動きの速さに驚いたようだ。体験では、実際の楽器の重さや左右別々の動きをすることに戸惑いながらも、自分で出した音に感動したという声が多かった。本物の芸術に触れる機会を得て、貴重で意義ある体験となりました。

0～2 歳児 保護者

0～2 歳児とその保護者のためのあそび・芸術ワークショップ

赤ちゃんの笑顔はまわりの大人や社会を明るくしてくれる存在です。参加した保護者や施設職員は、「0～2 歳児の“笑顔”がいっぱい、その笑顔に、いっしょに参加した保護者の気持ちも癒され、安心して たのしく参加できた」と応えています。「また参加したい 100%」は、この事業への期待が高いことを示しています。基本的な人格形成がされる乳児期であり、子育ての戸惑いが多いこの時期に、こうした芸術的なプログラムが子育て支援にも有効であると言えます。

安心・信頼・自信 で 0～2 歳児の心のコップをいっぱいに！

大森靖枝(通称おーちゃん) 表現あそび
「なんだろな なんだろな？」

プログラム：手をたたく・たたかない くまさんズボンで自分ではく リスさんとどんぐりのおはなし 手作りマヨネーズ笛 おーちゃんへのお手紙 お山をのぼる。雷 雨ぞーぞー 虹が出た 楽しく歌おう 手作り楽器にふれる

実施箇所：井井桜台センター 鎌ヶ谷栗野児童センター 国分寺台地区社会福祉協議会 成田市三里塚なかよしひろば イーハートブ



手作り紙芝居でリスさんが、どんぐりを拾って食べてほっぺがぷっくり。1 歳ぐらいの男の子が、マネをして、パクリ！ほっぺがぷっくりしてニコニコ顔。次々と子どもたちが前に出ておーちゃんにくっついて遊ぶ。その姿は保護者を温かい気持ちにさせた。最後におーちゃんから「お母さんは、子どもにとって一番の安全基地です」と伝えた。

ぷくぷくびよ～ん ジャンプ！ジャンプ！ いいですね～

安西真幸(通称まあちゃん) ダンスあそび
「おやこでいっしょにダンスあそび」

プログラム：しあわせなら手をたたこう ベビーシャーク なんの音かな？(擬音ピコピコ ビよ～ん ブクブク ビュービュー ニャー) さんぽに合わせて歩く。曲に合わせて踊る エビカニクス ジャンボリーミッキー

実施箇所：印西市ふれあい文化館 船橋塚田児童ホーム 生活クラブ風の村はぐくみの杜君津赤ちゃんの家 聖愛乳児園



「今日はね、体を動かしてあそぶよ。けがをしないようにね」と、やさしいメッセージ。子どもたちはニコニコと会場全体を和ませ、まあちゃんを真似て上手に体を動かし、「いいね！」と何度も褒められた。知っている曲に合わせて、歌う、踊る、笑う、動き回る。擬音が聞こえるとすかさずポーズを決めて、かわいいしぐさで表現した。時にはまあちゃんのお膝にチョコンと座ってニコッ！

ゆっくり ほっこり みんなをつつむやさしいじかん

大沢 愛(通称あいさん) わらべうたあそび
「うたとおはなしのじかん」

プログラム：ちっちちちち 手ってのねずみかごかご十六文 しおぶりこぶり きょねんのややと うまはとしとし いもむしごろごろ わたろわたろ さよならあんころもち

実施箇所：佐倉市北志津児童センター 成田市子ども館なかよしひろば 鎌ヶ谷市中央児童センター 船橋市南本町子育て支援センター



ちっちちち お母さんの指先が頭に、肩にとまる。子どもがお母さんの指先を目で追い、真似る。「じょうずだね～」あいさんが優しく声をかける。「わらべうたは、お母さんが子どもにやってあげるの。見て真似ることが育ちにはとても大切。そして大人は待つ必要があるの」とやさしく語りました。笑顔と癒しの豊かな時間が流れます。

幼児 小学生 中学生のためのあそび・芸術プログラム体験ワークショップ 32 か所

幼 児
小学生
中学生

直接目で見て感じたリアルな子どもの様子・姿の評価は、客観性と真実性があり、アートを活用した遊び体験の効果が高い。疲れるまで遊び込み、難しい技に挑戦したことや仲間との体験が、子どもたちに様々な嬉々とした感情を抱かせ満足感や達成感を感じる貴重な体験の1日になった。

プロのパフォーマーや地域の遊びの専門家による指導者の質の高いアート体験や遊びの交流の中で、子どもたちを丸ごと受け止める対応の様子が、施設の職員に評価された。自分の表現や工夫を褒めてもらうことで、子どもの表情が変わり、自己肯定感やQOL向上につながった。

令和5年度文化庁受託 芸術家派遣事業（授業での芸術体験ワークショップ）26校

子どもたちが体験によって得た技や知恵、プロの講師との出会いで、生の音のすばらしさや歌声の美しさ、感動や憧れ「すごい！おもしろい、という気持ちは、仲間と一緒に体と心で共感しあうことで、強く心に刻まれた。湧き上がるよろこびや自分も他者をも認める経験などなど、芸術体験が子どもたちにもたらす効果は、計り知れない。

子どもには個々それぞれに様々な感じ方や表現の仕方があり、そのどれも正解である。こうした芸術的プログラムの体験活動は自己尊重感情を高め、緩やかにゆっくりと子どもたちの内面にはたらきかけ、自信を与えていくことが明らかになった。すばらしく総合的な教育力をもっている「授業」と言える。

ドキドキするよね！勇気を出して すべて正解のダンス！

コンテンポラリーダンス

講師：安西真幸・安西千紗 ダンスパフォーマー

プログラム：体ほぐし準備体操 グループに分かれて手をつないで全員で立ち上がる エアキャッチボールゲーム オリジナルダンスを作って踊ろう 子どもたちの好きな曲、知ってる曲で踊ろう「僕のこと/強風オールバック/ado「唱」/ジャンボリーミッキー/エジソン/アイドル

実施箇所：市川市市川こども館 印西市立そうふけ児童館 千葉市児童相談所 中央児童相談所 市川児童相談所 君津児童相談所 多古町立中村小学校 鴨川市立天津小湊小学校

曲に合わせて自分の気持ちを表現する
「めちゃくちゃたのしい」



「それでもOK!」「すごいね～最高!」「これならできる」「うまくできたかどうか気にしなくていい」講師に褒められ、自信がもて、思いっきり自由に踊り出した。



一気にあそびのマジックにかかってしまった！子どもの心が解放された

あー楽しかった！楽しかった！すごく楽しい1日だった！ずっとやっていたい

表現あそびワーク

講師：大潤弘幸 岡本圭（劇団風の子）

プログラム：色オニ 震源地はどこだ かくれんぼ なりきりかくれんぼ 新聞紙で玉入れ 紙コップけん玉 お絵描き

実施箇所：佐倉市臼井老幼の館児童館 東上総児童相談所 柏児童相談所 君津児童相談所 市川児童相談所 銚子児童相談所 児童養護施設子山ホーム

正解はないから自分で想像して描くんだよ 「やったね。すごい」ひとりひとりへの声かけ、自分もやってみたいと挑戦、達成感を得た。

「たんていは目でよく見て、耳でよく聞き、頭でよく考え心で感じる」たんてい心構えの伝授！

表現あそびワーク

講師：大森靖枝

プログラム：みんないっしょに名たんていからだほぐし 「たんていってなにをする人？」色々あるよ！「目、耳、頭の修行」 体をきたえる たんていメガネで探そう（怪しいおとしもの）

実施箇所：児童養護施設野の花の家

げんきがでた。たんていメガネで暗号をさがし、本当にたんていみたいだった。



暗号が描かれた怪しい落とし物を、たんていメガネをして見つけた子どもたちは「なんだ！なんだ！」と拵けてジグソーを完成。が、数字の文字列は意味不明！12の数字を時計の文字盤にあてはめていくと、「くろいかばんをさがしてね」ができた！一件落着だ！



子どもたちとの声の掛け合いも興味関心と集中力を付けた！

たけちゃんのスゴ
技、すくめて面白
かった

こま・けん玉あそび

講師：武田勉(こまのたけちゃん)

プログラム：技の披露/けん玉 こま 皿回し
玉すだれ デビルスティック 体験/こまを回し
てみよう やりたいあそびをやってみよう 野
外で中国ゴマ披露

実施箇所：佐倉市佐倉老幼の館児童館 松戸市野
菊野こども館

「たけちゃ〜ん、できた！」うれしい気持ちを伝えたい、みとめてもら
えた、ほめてもらえた。どの子もあきらめることなく、自信になった。

講師の「私はこれすきだな〜」の声かけに子どもは嬉しそうになっ

人形工作

講師：永野むつみ 大沢直(人形劇団ひばり)

プログラム：3 分間人形劇場 封筒や様々な材料や道具を選
んで見たことがない生き物を作ろう 出来た作品見せあ
いっこ どんどこに住んでいる？

実施箇所：銚子児童相談所 柏児童相談所 富里市立富里第
一小学校

自分こんな発想
があるとおもわ
なかった、自分の
才能に気づけた！



「真似っここからオリジナルに、真似っこしたりされたりする関係
の中で生きていこう。」素材の豊かさ、自由に選べる楽しさ。個性
を認め、寄り添いながら 独創性あふれる作品に出来上がった。

音楽は、身体全身で楽しんだら、とっても楽しい

アフリカンパーカッション

講師：BBモフラン ダウディ 當間典子

プログラム：歌と演奏 アフリカの言葉 たいこ体験
(ジャンベ・ドゥンドゥンバ・ジュンジュン・ケンケニ
ー) ダンス 演奏 キーボード、ギター(マライカ)
ソーラン節にのって自由に踊る

実施箇所：千葉県千葉リハビリテーションセンター
千葉市桜木園 船橋市立船橋特別支援学校 館山市立
九重小学校 県立安房特別支援学校鴨川分教室 千葉
県立千葉聾学校

たくさん踊ったよ！
たのしかったよ！
楽しくてお礼のことは
をわすれちゃった！



「寝ていても動いてもなんでも OK」ダンスは恥を捨てて踊っ
て、とても疲れたけど最高の気分、もう一回やりたい。子ども
の声が返ってくる。特別支援学校では大好評

見立てに悪戦苦闘！熱いお蕎麦はなかなか難しい

落語

講師：古今亭始 柳家緑太 柳亭市童
入船亭遊京 金原亭馬久 柳家小もん
金原亭馬太郎 伊藤輝(落語協会)

プログラム：落語について解説 講師による落
語実演二席(初天神・転失気・狸札・牛寝め・元
犬・道具屋) 登場人物クイズ 見立て 小噺
体験 質問タイム

実施箇所：銚子市立明神小学校 我孫子市立布
佐小学校 木更津市立富来田小学校
船橋市立豊富小学校

話が始めるとおもし
ろくておなかがいた
くなかった。一人で何役
もやってスゴイ。
今日は最高の日にな
った！



「想像してごらん、落語は想像して聞くんだよ。」どんどん想像が
広がっていく。身体ごと楽しんだ。

真剣な表情で集中！相手と息を合わせて立ち回り



一番楽しかった
立ち回り
本当の歌舞伎
はレベルが違う

高い専門性が好奇心を刺激する。掛け声かけてね。名前をよぶ、みんな決まっている！「歌舞伎はね、みんなで協力してやっていくんだよ」

歌舞伎

講師：玉浦有之佑 藤井偉策 平澤愛
松浦海之介（前進座）

プログラム：歌舞伎の歴史・成り立ち 立ち回りの実演 解説 見得の体験 演技法 女形の解説と体験 立ち回りの体験と発表

実施箇所：旭市立三川小学校

狂言の立ち方、歩き方、声の出し方、みんな優秀・よい集中力です

狂言

講師：大蔵教義 小梶直人 上田圭輔
（大蔵流吉次郎狂言会から）

プログラム：狂言の解説（笑い方 挨拶 正座）
「柿山伏」実演 装束披露・試着 人物クイズ
体験（立ち方・歩き方・声の出し方）

実施箇所：長柄町立長柄小学校

声がめっちゃひびいていた。
ずっと正座でなくてたすかった



敷居がとっても低い古典芸能、狂言！！舞台には何もなくて小道具もない。「想像力をフル回転させてください」 柿山伏では、「正解はない。どうやって生活すれば平和に暮らせるか想像しよう」

すごくむずかしかったけれど、やりきれて楽しかった

和太鼓

講師：関根まこと MORIMITSU
佐々木美奈子 井深慎也 加藤飛和
森澤良太 佐野健士龍 見目萌
（太鼓笑人めでたい）

プログラム：オリジナル曲和太鼓の実演 太鼓の解説と楽器紹介（締め太鼓・宮太鼓・大太鼓・桶筒太鼓・チャンキキ・拍子木・チャップ） 太鼓体験チームごとに講師実演 そうま

実施箇所：白子町立関小学校 館山市立館野小学校 柏市立富勢西小学校

振動が体まできて震えまくって太鼓に興味がわいた。
時間が過ぎていくのが早くてびっくりしたけどいつもの授業とはちがって楽しかった。



子どもたちをひきつけるプログラム、子どもの変化が音に出る。「いいね～～！うまいね」「もう一回行こうか」講師の励ましでどんどんやる気を引き出した。思い切り叩いた後は達成感でいっぱい。

こわごわ触っていたが、だんだん大きな音になっていった

箏

講師：中村文香代妃（生田流師範）
朝香麻美子 清野さおり 山崎忍
清野樹盟

プログラム：箏の説明 流派の違い 演奏体験（さくらさくら） 講師の実演（六段の調べ・春の海・ひぐらし・もののけひめ・トトロ） 三味線・尺八の説明 十七弦の説明

実施箇所：富津市立飯野小学校

弾くのに力があるのにすらすら弾けてすごい。
むずかしいし、いたかったけど、うまくやれてよかった。



初めての楽器に触れ、緊張感がいっぱい。講師が子どもたちの間を回ってみてくれる。「背中がまるまっていますよ、気を付けて」どの子も集中して箏をひいた。



歌の振り付けを子ども自身にまかせたら 積極的に動くことが出来た

みんなでなかよく
できたので、もっと
やりたい。
自分たちでできが
できたので楽しか
った。

演劇・表現体験

講師：半田晶子 亜白辰彦 松本伊代
(まちアート・夢虫)

プログラム：全身体操・呼吸 動いてみよう 身体表現 絵本の朗読劇を観る 「風の又三郎」の曲に踊りを振付、風になって動く劇づくり・発表 感想出し合う

実施箇所：市原市立養老小学校

「みんなおもしろいやりた」どんどん立ち上がって自分の気持ちを言い始めた。みんなの前で楽しいこと、表現できるって大事なことです。

自分の限界に挑戦！！

サーカスワークショップ

講師：CHEEKY! (智春) DAIKI Laby
こんどうりえ (チキキ*パークウ)

プログラム：ミニサーカスショー サーカスについて解説 ウォーミングアップをやってみよう サーカスの技体験(歯ブラシ回し、クジャクの羽でバランス フラワースティックでジャグリング 空中芸 皿回し 玉乗り)

実施箇所：香取市立栗源小学校 白子町立白潟小学校 勝浦市立豊浜小学校 県立特別支援学校 市川大野高等学園

なにごとにもあきらめない、失敗しても気にせず、練習たくさんしよう

サーカスは命の危険、体力の限界に挑戦。みんなもあきらめずに好きなことをやり続けて豊かに生きてください。失敗はない、面白いことへの種になる



壁に挑戦！はずしかったけれどやったら楽しかった



班ごとに考え相談してやってみて見せるのがいい。

「人前でやるのが苦手でも、他に好きなことあったら、それを頑張ればいい」

パントマイム

講師：チカパン(パントマイムプラネット)

プログラム：講師実演パントマイムを観る マイム体験 壁から脱出に挑戦 パネルパントなど(鳥・蝶々) グループに分かれてパントを考え、発表

実施箇所：印西市立本埜小学校

自分たちで考えたこと、全員さいごまで発表できた。すごいと思う



ジャンベに頭や手を入れて遊べたのしかった。うた子さんの歌にいやされた。

ギターもシャカシャカも歌子さんの素敵な歌声も人と人がつながるツール。臨機応変に子どもたちの親しんだ曲にプログラム変更、質問コーナーでキャリア教育「やりたいことがあったら続けていくとなんかいいことあるよ」

太鼓のジャンベに触れてたたいて楽しんだ

音楽

講師：うたこさん ぴんたろう
上村純 (リーフ企画)

プログラム：自己紹介の歌 講師実演(バルデリー)ギター演奏 ぴんたろうと楽器紹介 体験「翼をください」を歌う 質問コーナー

実施箇所：旭市立富浦小学校



いいねいいね、やろうやろうの声がたくさん出て作品が出来上がった

授業時間(六時
間の半分(三時
間)はずっとやっ
ていたい

遊びの中に演劇的表現がある「今日は遊びます！」でスタート。遊んだだけだったけど「めっちゃたのしかった」子ども絶賛。

ミュージカル
講師：藤森裕美 東城由依 大浴ちひろ
平葉月(イツフォーリーズ)

プログラム：ミュージカルって クイズ 遊ぼう チームごとにお題にあわせて静止画を作る
「手のひらを太陽に」から出題 みんなで歌う
オリジナルダンスを作ろう 発表

実施箇所：野田市立川間小学校

やっぱりむずかしいな～、重かったけど楽しく弾けた！

千葉交響楽団

講師：松本伸二 下城瑠五子 東條美紀

プログラム：オーケストラの説明 バイオリンについてバイオリン演奏(愛のあいさつ・ユモレスク・ツィゴイネルワイゼン・花) 楽器体験 校歌演奏合唱

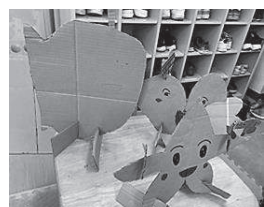
実施箇所：君津市立北子安小学校

自分が下手すぎ
て！
やっぱプロは
すごい！

生演奏の迫力！美しい音！
見たときは簡単そう、いざや
ってみるととても難しい。



子どもたち一人一人に寄り添いながら、子どもたちのペースでゆっくり考えることを大事にしています。
おもいおもいに自由に作っていきます。じぶんの力でやりとげる、満足感を味わっています。



地域のあそびの専門家

講師：(特)市川子ども文化ステーション
(特)子どもネット八千代 (特)千葉中央お
やこ劇場 (特)四街道こどもネットワーク
(特)子どもプラザ成田

プログラム：工作(くるくるレインボー・革
工作・ストロー鉄砲・飛ばしてキャッチ・パ
クパク人形・革のクリスマスオーナメント・
ダンボールで立体工作・そこそこコマ・プロ
ペラコマ・みんなでびよ～ん・キラキラビー
玉の万華鏡・ビーズのストラップ・スポンジ
のケーキ・ミサンガストラップ・ホログラム
シートのキラキラコマ・不思議なマジック
カード)

体を使ったあそび(ボッチャ・運動会)

実施箇所：下志津病院 千葉東病院 国府台
病院

【児童養護施設】ほうゆうキッズ 一宮学園

【障害児入所施設】不二学園

【放課後等デイ】アフタースクールセンター
むぎ畑 わくわく bloom グリーンヒルキ
ッズ

「すてきじゃない～」「上手だ 上手だね いいね～」「映える
ね」ほめられてうれしそう。教えあいながら、お話が弾む。

編集後記 「社会性は0～2歳で育つ。人間関係の素地は親子関係で築かれる。絶対週5日学校に通い続けて学ぶものではないと僕は思う。」と、しこうさん。気持ちいいほど徹底した子ども目線、当事者目線のお話に納得できた。0～2歳時期での愛着形成は一生の土台となることを再認識!! 芸術文化の力で幸せの種まきをいっぱいしたいですね。今号は、芸術的なアプローチによる体験ワークでの子どもの笑顔や、挑戦している姿が満載です!